



確率ゼロでも地震は起きた！ 公費で生活の再建を！

熊本の大地震には背筋が凍る思いでした。十四日にはM(マグニチュード)六・五。ところが十六日にはM七・三の地震。これが本震で、十四日のは「前震」と言い換えられた。

家の倒壊に

倒壊した家の前で老婆が「これから家を建てるのは不可能」と途方に暮れていた。

しかし、いつも政府は「私有財産だから」とそっぽを向く。大会社や銀行の危機には、巨費を投じるが・・・。

国民生活を守るのが政府の役目。最低限の家は公費で再建するべきではないか？

地震予測は？

今回地震を起こしたのは日奈久、布田川、別府、万年山の各断

層。いずれも政府の地震調査委員会は三十年以内にM七・〇程度の地震が発生する確率を「ほぼ〇・〇・九%」と評価していた。実際に起きた地震はM七・三。M七・〇の二・八倍のエネルギーだ。

つまり「いくら予測した確率が低くても、地震は起きる」のだ。

地震が起きそうだという事は云つても良いだろうが、「起きない」とは云えないのだ。

川内原発について鹿児島地裁は「原子力規制委員会の耐震設計基準は合理的」と運転差し止めの請求を却下。この耐震設計基準は「地震があつてもこの程度」としたものだ。そういう基準が、あてにならないことを、今回の地震が証明したのではないか？

みなさんはどう思われますか？

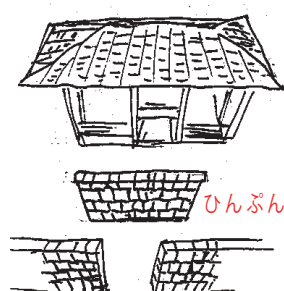
ひんぷんガジユマル

沖縄県名護市

二〇一六年四月



「ひんぷん」とは漢字で書けば「屏風」。魔物が門を通つて真つ直ぐ家に入つて来られないように屏風のように建ててある。(左図参照) 一七五〇年当時の総理大臣にあたる蔡温が、ガジユマルの木の横に「三府龍脈碑」を立てた。その碑石が「ひんぷん」に見えることからガジユマルも「ひんぷんガジユマル」と呼ばれるようになったと云う。



そのガジユマルは名護大通り南の端近くのロータリーにある。高さ十九m、枝の広がる直径は三十m。樹齢二百数十年。

